

DATA FILE



斜方晶系

名前	ALEXANDRITE(アレキサンドライト)/アレキサンドライト
化学組成	$\text{BeAl}_2\text{O}_4 + \text{Cr, Fe}$
色	暗緑色 (多色性あり)
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	明瞭
断口	貝殻状、凹凸状
硬度	8.5
比重	3.7

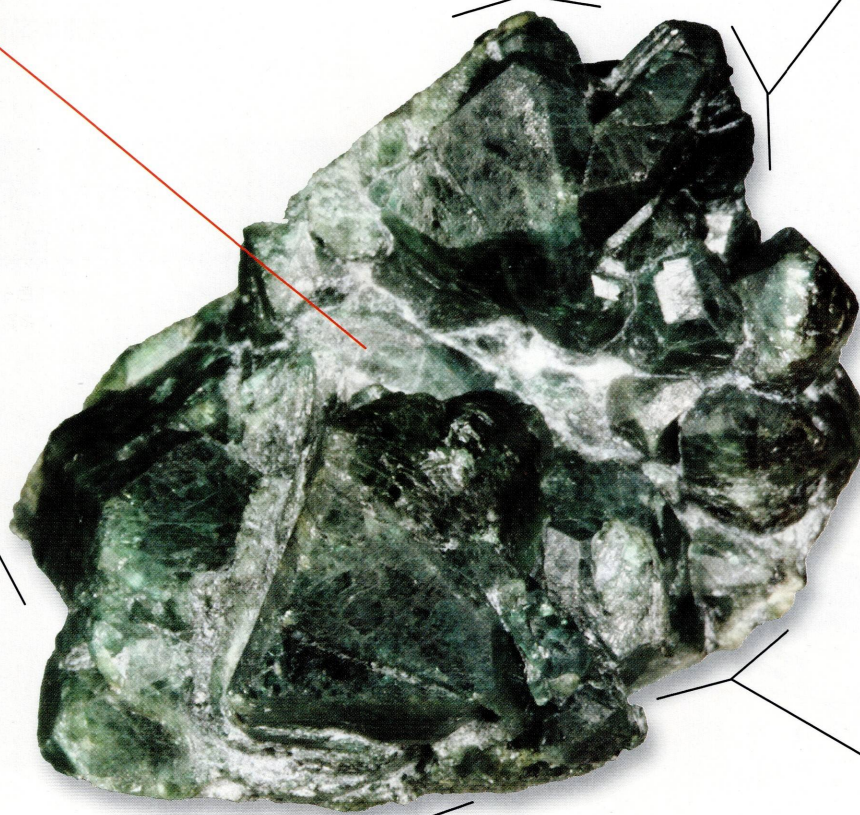
アレキサンドライト

ALEXANDRITE

金緑石の変種で、通常は暗緑色だが光源によっては赤みがかった色に見えるという特徴を持つ。

ガラスのような光沢を示す。

ジンバブエで産出したアレキサンドライト。



劈開は明瞭で、ハンマーでたたくと貝殻状または凹凸状の断口を示す。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

「アレキサンドライト」という名称は、ロシアのアレクサンドル2世にちなんで名づけられた。

ミネラルファイル

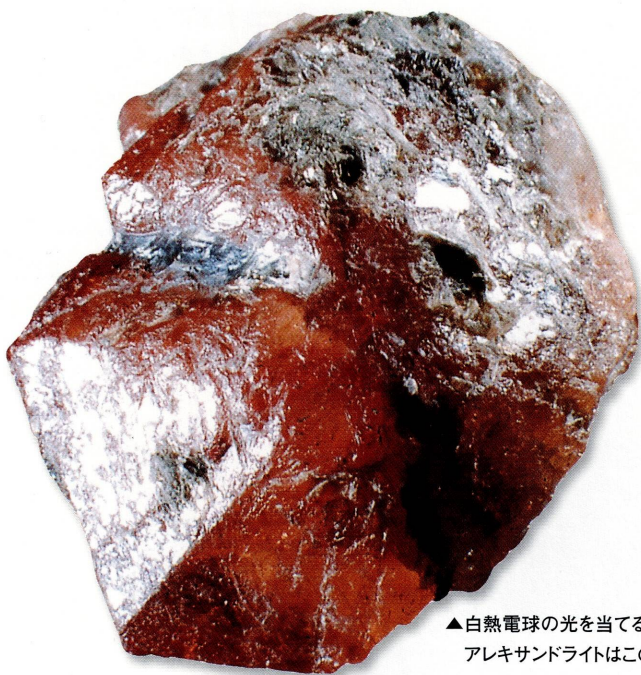
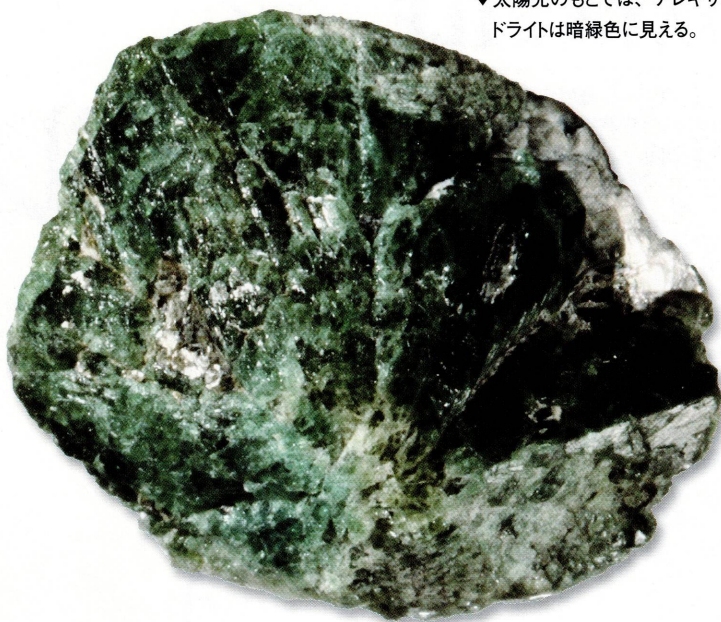
酸化鉱物

アレキサンドライト

光によって色が変わる宝石

アレキサンドライトは金緑石〔 BeAl_2O_4 〕の一種で、自然光や蛍光灯のもとでは暗緑色、ロウソクや白熱電球のもとでは赤色に見えるという特殊な性質を持つ。鉱物のなかには光源によって色の変化を見せるものが他にもあるが、アレキサンドライトほどの変化を見せるものは類を見ない。この特性は、アレキサンドライトの組成中に含まれる微量のクロムが原因と考えられている。なお、

▼太陽光のもとでは、アレキサンドライトは暗緑色に見える。



▲白熱電球の光を当てると、アレキサンドライトはこのように赤く見える。

世界的に産出量が少ない金緑石のなかでも、とくにアレキサンドライトの場合はわずかしかな存在せず、天然のアレキサンドライトは非常に貴重な宝石として、高価で取引されている。

アレキサンドライトの発見

1830年代、一攫千金を夢見てウラル山脈を東へ進んでいた開拓者たちは、山脈の谷間にある粒子の粗い変成岩中からエメラルドによく似た緑色の石を発見した。夜になり、その石をロウソクの明かりに照らしてみると、緑色だったはずの石が赤色に変化していたため大騒ぎになり、開拓者たちはその石を「神のいたずら」、「魔法の石」と呼び、時のロシア皇帝ニコライ1世に献上することにした。ちょうどその日がアレクサンドル王子（後の皇帝アレクサンドル2世）の誕生日であったことから、この石は「アレキサンドライト」と名づけられることとなったという。また、アレクサンドル王子の成人式の日のためにこの石を取っていったという説もある。

▼カッティングが施されたアレキサンドライト。



主な産地

